

次号予告

特集／脊髄損傷自立への側面

- 脊髄損傷における起立・歩行訓練の意義……伊豆通信病院 石田卓司
 脊髄損傷就労の際の作業環境の改善……太陽の家 野尻義孝
 脊髄損傷の自己管理……信原病院 稲垣稔
 <随想>脊髄損傷主婦と台所……都心障センター 飯村ふみ子
 座談会／脊髄損傷者と社会環境……兵庫リハセンター(司会) 大喜多潤
 とびら チームワーク……兵庫リハセンター 山下隆昭
 講座 教育学シリーズⅦ 社会教育……淑徳大学 白石克己
 プロGRESS CP 早期治療における OT, ST の役割(2)……聖母整肢園 梶浦一郎
 訪問指導(訪問教育)……筑波大学 三沢義一
 Recommended <PT 部門>義肢・装具……兵庫リハセンター 西岡正明
 Readings <OT 部門>慢性関節リウマチと OT
 ……………東大リハ部 木村信子

文献抄録

編集後記

例年になく厳しかった暑さも遠のき、いつの間にか吹きぬける風に冬の気配を感じる季節となりました。

さて今月号は、特大号「義肢・装具ハンドブック」をおとどけいたします。

自助具、車椅子については、今回触れませんでした。義肢・装具の歴史から最近の動向、給付システム、下肢切断と義足、上肢切断と義手、体幹・下肢装具、手副子、また技術者の先生による製作の実際に至るまで網羅いたしました。

紙数の都合から、次の機会に譲ったテーマもごさいますが、各専門分野の執筆者による日頃の研究成果がいかに発揮されており文字通り「ハンドブック」として、読者諸氏の日々の治療にお役に立てるのではと期待いたしております。

また、医師、補装具製作者、SW、ナー

スの方々にも是非、一読をおすすめしたいと思います。

本誌も、もう創刊以来12年たちました。その間、特大号も4回発行いたしました。これからもますます皆様の要望にこたえるような、中味の濃い雑誌を作っていくと願っています。

その意味において、PT・OTの先生の従事しておられる病院、施設、学校における治療、研究の成果をまとめられて“研究と報告”欄に積極的に投稿いただきたいと思っています。

確かに忙しい合間に論文をまとめるということは、並々ならぬことと思いますが、「他の職場との交流がなかなかむずかしい」という声をしばしば耳にするのにつけても、本誌の紙面をおおいに利用され、治療水準を少しずつでも上昇していただければと考える次第です。

(編集室)

<編集顧問>

天児民和
九州労災病院長

五味重春
筑波大学心身障害学系教授

砂原茂一
国立療養所東京病院長

津山直一
東京大学教授・整形外科

水野祥太郎
川崎医科大学学長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上田敏
東大リハビリ部

荻島秀男
わらび診療所

大喜多潤
兵庫県リハセンター

鈴木明子
府中リハビリ専門学校

寺山久美子
都心障センター

奈良勲
有馬温泉病院

福屋靖子

松村秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

大橋博

大丸幸

金子翼

鎌倉矩子

紀伊克昌

駒沢治夫

佐藤章

佐藤馨

嶋田智明

高橋正明

武富由雄

谷岡淳

富岡詔子

中屋久長

藤沢しげ子

松本妙子

丸谷隆明

矢谷令子

山下隆昭

和才嘉昭
(担当 細田・西塚)